

「マイクロ波」 肝臓がん焼灼

製鉄記念室蘭病院・市民公開セミナー



効果的治療方法を解説

製鉄記念室蘭病院(前田征洋病院長)の「第49回市民公開がんセミナー」が17日、室蘭市知利別町の同病院がん診療センターで開かれ、市民らは西胆振医療圏では、2017年(平成29年)11月から同病院のみが行っている治療法「肝臓がんに対するマイクロ波凝固治療」の現状などに理解を深めた。

(松岡秀宣)

市民ら約60人が耳を傾ける中、放射線科の湯浅憲章

「マイクロ波凝固治療」を中心に解説した。

科長が、体外から肝臓のがんに向けて針を刺した上で、マイクロ波アブレーション(MWA)と呼ばれる装置を用い、60度から100度の熱で焼灼する治療法

体外から肝臓のがんに向けて針を刺す治療法の一つとして、ラジオ波と呼ばれる高周波の電流を流してがんを壊死させる「ラジオ波焼灼療法(RFA)」もある。湯浅科長は「RFAはラグビーボールのように細長く焼ける傾向もあるが、MWAでは短時間でより大きく、球形に近い形で

がんを焼灼することが可能」と強調した。

さらに、大腸がんの肝臓転移症例で、深い位置や血管に近接するなどの一切除困難な腫瘍についてもMWAを施すことも可能となった」と話し、血管に近い腫瘍や転移性肝臓の治療でも効果が期待されている実情を説明。市民らは真剣に耳を傾けていた。

セミナー